

お母さんのミシンの音

福岡県 福津市立津屋崎小学校 三年

諫元 妃莉

ほいく園に行っていた時も、小学生になっても、わたしのバックや、おべんとうのふくろや上ぐつ入れはぜんぶお母さんの手作りです。わたしの好きなもようのぬので、ちよūdい大きいミシンで作ってくれるけれど、それをあたりまえだと思っていました。

小学生になって、学校にぞうきんを持って行く日がありました。お母さんは、いつものようにカタカタとミシンの音をならしながら、ぞうきんを作ってくれました。でも、しょうゆ屋さんからもらったタオルで作っていたので、そのぞうきんには、しょうゆやさんの名前が大きく書いてありました。わたしは、「はずかしくて持っていけない。お店で買ったぞうきんがいい。」と言ってしまいました。お母さんは、「ごめんね。」とあやまってくれて白いぞうきんを買ってきてくれたけど、お母さんが作ってくれたものを、使わなかったことをこゝうかいました。

世界にコロナが広がって、マスクが買えなくてこまっていた時、お母さんは家族のためにミシンでマスクも作ってくれました。さがしても買えないものを作れるお母さんのことをはじめてすごいと思いました。お母さんが作ってくるマスクは、レースやかざりがついていて、とてもおしゃれ

です。コロナにかんせんしないようにくふうして作っているのだと教えてくれました。わたしの口やはなにフィットしてつけやすいので、本当はマスクをつけるのはあつくていやだけれどがんばってつけられます。お母さんは、仕事がいそがしいのに、「かわいいレースやリボンがたくさんついたマスクを朝までに作って。」友だちの分も作って。「妹とおそろいがいい。」というわたしのわがままをぜんぶかなえてくれていました。きつと夜おそくまで作ってくれていたんだらうなと思うと、ますますお母さんのマスクが好きになりました。

わたしは、お母さんのミシンの音のとなりでべんきょうすると、なんだか安心していることに気がつきました。お母さんのミシンの音は、わたしたちへのあいの音だなあと思いました。

お母さん、仕事でつかれているのに、いつも夜おそくまでかわいいマスクをたくさん作ってくれてありがとう。お母さんのおかげで、毎日のマスクをつけようかなとえらぶのも楽しいよ。お母さんのやさしいミシンの音をこれから聞かせてね。お母さんがつくってくれたたくさんのマスクや、ふくろ、バックをこれからもだいにするからね。